



## 第33回 日本理学療法士協会総会並びに代議員会報告

県士会長 伊藤 和夫

日時 平成16年5月26日 13:00～16:50  
 場所 仙台エクセルホテル東急  
 案件 総会資料参照  
 出席 伊藤和夫（青森協立病院）、後藤明教（国保黒石病院）

標記の会議報告をいたします。代議員会は定数121名中105名の参加、総会は会員数31,809名中参加者171名、委任状は約17,000名余りでした。日下副会長の開会の言葉の後、中谷会長の挨拶がありました。今年度には、有資格者数は40,000名台、協会員数は35,000名台、養成校は172校、一学年数は8,000名余りになると報告されました。続いて、今回の半田学術大会長の挨拶と協会長賞の授賞式が行われました。議長選出の後、議事に入り、事業総括報告は会長が、続いて丸山事務局長の決算報告、最後に監査報告がなされ、特に質疑が無く拍手承認されました。総会の質疑では（議案ごとに代議員会と交互に開催する）では、参与の取り扱いと中間監査報告（業務遂行の議事録作成）についてが出されました。

次に代議員提案議題で出された意見の内容と協会の答弁（カッコ内）の概要を以下に報告致します。

- ・名誉会員の選出理由について（今後検討し、明記したい）
- ・支援費制度との関係で第3号被保険者への対応は（PTの業務分析、様々な分野ヘルスプロモーション、支援と介護保険の統合、何らかの方策、提言できる方向で検討）
- ・筋トレ、在宅、身障（児）へのPTの関わり、協会の指針について
- ・診療報酬、協会の意見反映されていない、06年には大きな改正か、要望書は出されているが、協会はどのへんを目指しているのか（技術料評

価、基準を出した、今年度肺理学療法認められた）

- ・診療報酬に対する協会の方向は、技術料か、単位数か、死守するのか？（今回調査、18単位から22単位へ検討、PTを増やす方向での要望、基本的にPTを増やし質の高い内容を目指す、算定、物価上昇、財源、医療費、今の枠内での理論の展開になるか）
- ・審議会では今年の秋までに決まるか、秋までに何をするのか？政策提言、戦略は？（中医協、カンファレンスの点数化を検討、代議士との付き合い、金銭面の検討必要）
- ・協会の内容無理か、責任を取れるのか？連盟や組織強化を含めて検討していただきたい（PTにもABをつける、今後をふまえての協会活動を展開する）
- ・訪問リハステーション、国の考え方がないと県では名称を変えられない、各県では動けないのが現状である（訪問リハ、上からの通達、もう一つの方法としてもう一步踏み出していただきたい、厚労省から理解はいただいている）
- ・教育機関について、第三者評価の必要性は？（実習施設や教育機関についてのWCPTの指針はない、協会として検討したい）
- ・スカパーの取り扱いについて（現状の継続）
- ・実習施設、実習生満杯、実習生の事故、協会として臨床実習の取り扱いは？（次の時代の検討必要、実習病院の形態、県士会での実習に関する許容範囲などの状況把握、何らかの形を出したいが）

- ・1,070 題の応募 1,059 題の発表、今後の演題数について（学術局の見解はない、会員の増加率に比して、演題数は少ない、他団体はさほど厳しくない、多く出して欲しい）
- ・専門研究会の方向性、人数、現職者講習会と専門研究会、各部会の管轄下には？（一本化については検討してみたい、将来、分科会学会、領域ごと、方法論はあるが、人数差など要検討）
- ・宿泊費の支給（今年度より実施）
- ・理事会議事録の詳細とオンライン化、審議の経過（音声配信）、E - mail 配信の時期、会員管理、印刷物の入札（検討中）
- ・議員連盟、協会が政策提言を行う（超党派では可能、連盟があった方がよい）
- ・音楽療法制度化について
- ・連盟について、協会から連盟に提案していくやり方ではどうか（士会から理事会へ提案していただきたい、総会、代議員会で方向性を決めていく、連盟の件は理事会の中ではタブー的な存在である、会長から提案する考えである、イデオロギー考え方、政治的立場、政治団体の届出、献金の手続き、公職選挙法の届出等が必要である、選管へは届出済み、会員のご意見、総意、時間をいただきたい）
- ・選挙方法の特別委員会のその後、現職の理事が入らず、外部のほうが良いか（方向性についてはすすめていかねばならない）
- ・職域の拡大、質の高い PT は？（介護予防事業、多職種の関係、介護予防、ヘルスプロモーション、戦略的に分ける、各士会、施設の状況、

介護保険領域での拡大等、資料提供をいただきたい）

- ・社会職能評議会について（第 1 回は開催、審議中）  
また、総会での質疑、答弁は以下です。
- ・連盟、歯科医師連盟、慎重な討議を、PT 週間の新聞広告について監事の評価、
- ・参与について（理事会の広告に関する見解、参与は組織図にはない）
- ・その他、新人教育、白書、学会開催地の早期決定、予算の増大、会費の値下げについて

16 年度の事業計画、予算は、説明、討議で承認され、会議は終了予定時間の 10 分前に終了いたしました。最後に次期学術大会（大阪）林会長の挨拶がありました。

感想としては、昨年からは会長他理事会体制や組織部局体制は変わりましたが、会員の毎年の増大とそれに伴う事業展開が今、協会に求められています（士会でも同じことですが）。医療情勢は明らかに国民医療費抑制政策であります。医療、介護は現在のリハビリテーションとはきっても切り離せません。私たちの土台は、まさにここにあります。今国会での年金問題にみられるように、わが国の高齢者問題は深刻です。政治との関係は重要ですが、政治連盟は、一言で言うならば圧力団体そのものです。政治改革は、一部の団体の利権のみを要求しても解決にはならないでしょう。この意味でも国政選挙は重要と考えます。

## 第39回日本理学療法学会(宮城大会)に参加して

三沢市立三沢病院 リハビリテーション科 村上三四郎

5月27日から29日までの3日間、仙台市国際センター、スポーツセンターで行われた第39回日本理学療法学会(宮城大会)に参加してきました。今回はその印象を少し報告したいと思います。

今大会ではポスター発表のみで、演題数は1,000題を超え、参加者数も3,000人を超えた大会と聞きました。(仙台だけに1,000題にしたかったらしいです……)

初日は開会式の後、弘大の長谷川先生と青森労災の安田先生の発表を聞きに行きました。自分も参加した冬季アジア大会関連についての報告でしたので、応援と発表の雰囲気を感じようという意気込みで行ったのですが、会場の人数の多さ、熱気に圧倒されました。会場が広く声が聞こえにくいという印象も受けました(長谷川氏はグッドポスター賞を受賞しました、おめでとうございます)。その日は夕方17:40に自分のポスターを貼り付けて、終了となりました。その後、夜の学会?に繰り出しましたが、詳細については誌面の都合上、控えさせていただきます(笑)。

大会2日目は朝9:30から自分の発表がありました。私は結構、緊張するほうなので、事前の準備を万端に整えました。発表原稿をつくり、my 指示棒も購入(これは、発表主催者側で用意してくれたので不要でした)、また発表時間が何度やっても3分以内ならず、苦労しました。いよいよ自分の番です。自分は3席目でしたが、体と声だけは大きく心をかけて、心地よい緊張感の中、無事発表することが出来ました。内容は緩和医療についての取り組みを紹介したものでしたが、幾つかのアドバイスも頂くことが出来ましたし、交流ホルダーの中にもメッセージが入っていたのでとても嬉しくなりました。発表が終わってからも、ポスター撤去の時間まではなるべく自分のポスターの近くにいて足を止めて見てくれる方には積極的に話し掛けるようにしました。最初に話し掛けるときは、まるで女の子に告白するが如く恥ずかかったのですが、いろいろな話を聞けたり、名刺交換したり、この時間が一番有意義だったよ

うにも感じました。(ゆっくり見たい人には迷惑だったかも知れませんが、何人かは逃げていってしまいました……)

午後からは顔面神経関係の発表を中心に聞きました。昨年末に県の定例研修会で自分が発表してから、積極的に情報を集めるように心掛けています。少しばかりの人脈も出来たので、顔面麻痺に興味ある方は、私にも声をかけてください。

声をかけるといえば、学会期間中、さまざまな人から声をかけられました。以前は自分から挨拶することばかりでしたが、実習に来た学生だったり、後輩だったり、声をかけてもらうことは結構嬉しいものでした。話が出来なくても、目が合っただけでもコミュニケーションにはなりますね。(実はこれで、この原稿依頼を予感しました。)

話が反れてしまいましたが、私自身が仙台の養成校出身ということもあり、今回の学会は知った顔ばかりで、とても身近に感じました。第40回は食い倒れで有名な大阪で開かれるようですので、昼の部、夜の部ともに参加したいなと思います。また、ここでは書けなかった印象記もたくさんあるのですが、何かの機会に飲みながら口述発表したいと思います。



## 新入・転入会員紹介（東青・中弘南黒・西北五地区）

### 青森県立保健大学院 矢吹 勇太

初めまして。矢吹勇太です。出身は愛知県で、22歳です。今年、青森県立保健大学を卒業し、同大学大学院・理学療法学分野・運動生理学領域に進学しました。

高校時代に野球でケガをしてリハビリを体験し、そこで理学療法に触れたことが理学療法士を目指すきっかけとなりました。そのため、大学院では傷害予防の観点に立ち、理学療法士の視点からスポーツに関する研究に取り組み、励んでいきたいと思っております。

青森は5年目で随分と雪や津軽弁にも慣れましたが、理学療法士としてはスタートラインにたったばかりで未熟です。しかし、理学療法士に誇りと責任を持ち、一つ一つ確実に成長していけるように頑張りますので、宜しくお願い致します。

### あおもり協立病院 柳沢 恵

初めまして、柳沢恵と申します。今年度からあおもり協立病院で勤務しております。出身校は仙台医療技術専門学校で、出身地は十和田市なので現在一人暮らしをしています。青森市には3回位しか来た事がないので道が分からず、行動範囲はかなり狭いです。寂しいので少しずつ拡大していく予定です。

今は、まだ分からない事だらけですが、自分なりに努力をし、技術や知識をたくさん学んでいきたいと思っております。いろいろとご迷惑をおかけすると思っておりますが、ご指導よろしくお祈り致します。

### 弘愛会病院 沢目 紘子

はじめまして、弘前市の弘愛会病院に勤務いたします沢目紘子です。出身は青森県ですが、南部だったので就職先である津軽地方とでは方言が異なり患者様とお話するとまどうこともあります。楽しく過ごしています。またつたない技術ではありますが、患者様に上手になったねと言われて嬉しいこともあります。しかし、技術・知識はまだまだ勉強不足だと感じています。理学療法士になったからそれで終わりではなく、新しい技術・知識を身につけていけるように日々勉強に励みたいと思っております。

未熟者でご迷惑をおかけすることがあると思っておりますが、一人前の理学療法士になれるよう先輩理学療法

士の皆様のご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

### 弘愛会病院 小野 寿子

はじめまして。弘前大学に編入した小野寿子です。弘愛会病院に非常勤で勤務しています。出身は秋田県ですが、サッカー大国への熱い想いを断ち切れず、静岡県浜北市の静岡医療科学専門学校を卒業しました。弘前は6月なのに夜になると寒く、静岡の暑さが恋しい今日この頃です。今は、大学では学生と戯れ（勉学に励み）、病院では患者様と楽しいひと時（リハビリ）を過ごしております。このように、大学と病院の往復で忙しい毎日ですが、とても充実した生活を送っています。こんな生活が送れるのも、理解のある病院と先生方のおかげだと感謝致しております。至らない点が多々ありご迷惑をおかけすると思っておりますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 弘前中央病院 上原 毅

県士会の皆様、はじめまして沖縄県出身の上原毅です。今回、弘前大の三年次に編入することができ、青森県にやって来ました。現在、財団法人秀芳園 弘前中央病院で非常勤として勤務しながら、大学に通っています。

青森での生活は、全てが初めての経験で毎日が新鮮です。生まれて初めて、雪道を歩いたり、水抜きやストーブ、電気毛布なども使用しました。在学中の二年間で、青森での生活を十二分に楽しみたいと思っております。本当の寒さ(冬)を経験しても「楽しむ」と言えるかどうか分かりませんが・・・もちろん、勉強も仕事もしっかりと頑張っていきたいと思っております。また、なるべく早く津軽弁を聞き取れるようになり、出来れば患者さんと片言でも良いから津軽弁で会話が出来るとなりたいです。

最近、沖縄の方言（ウチナーグチ）を忘れそうなので、最初の2行を沖縄の方言に変換します。

ハイサイ、ニヘーデービル。ワンヤ、ウチナーカラチャー、上原毅ヤイビィーサ。クンドウ、ヒロサキダイカイ、イイルクトゥナティ、アオモリケンカイチャー。ユルシク、ウニゲーサピラ（どうぞ、宜しくお願い致します。）

黎明郷リハビリテーション病院

飯高 恵子

こんにちは 今年青森県立保健大学を卒業して（財）黎明郷リハビリテーション病院に入りました。出身は北海道帯広市です。十勝平野の真ん中で青森には自然が多いといわれていますが、私の印象としては、青森県でも家が多いなという印象です。下北でちょうどいいかな。帯広の名物は豚井で、高校の先輩に中島みゆき、同級生にドリカムの吉田美和、後輩にアナウンサーの安住伸一郎がいるのが名物かも。10数年働いてから大学に入りました。きっかけはリストラです。失業保険をもらいながら受験勉強しました。ちなみに入学金は退職金をあてました。年齢差で同級生の親にみられたこともあります。年を取っているのに何もできなくて情けないですが、これから頑張ろうと思いますので宜しくお願いします。決してベテラ

ンではありませんのでお間違えなく

黎明郷リハビリテーション病院

岩谷 奈津子

黎明郷リハビリテーション病院の岩谷です。平内町出身 22 歳です。出身校は青森県立保健大学です。現在は寮に入っているため温泉とたけのこで有名な碓ヶ関村の村民です。産まれてから 22 年間海のないところで生活したことがないので、今年の夏、関の猛暑をのりきれるか心配です。だからたまに海に帰ります。女子寮生活は最高です。毎日寮仲間と集まって何かを食べてます。

今年の新入会員の中で一番でっかくてメガネをかけた女が私です。よくボーっとしていますが決してコワくないので気軽によってきてください。

## 平成16年度 青森県理学療法士会特別講習会のお知らせ

学術局長 長谷川 至  
研修部 佐井川 匠秀

- 記 -

テーマ：「脳の機能解剖と運動学に基づく脳血管障害の理学療法」  
日時：平成16年10月23日（土）～24日（日）  
会場：青森県立保健大学  
講師：吉尾 雅春（札幌医科大学保健医療学部 理学療法学科）  
参加費：3,000円（昼食代を別途徴収致します。500円程度）  
情報交換会費：3,000円程度（講師を交えて1日目終了後に予定しております。）  
定員：30名（要事前登録、先着順）  
申込締切後参加者には公文書発行とともにご連絡致します。  
申込方法：下記の必要事項を明記の上、FAXまたはメールにてお申し込み下さい。  
氏名（ふりがな） 所属先 所属先電話・FAX 経験年数（年目）  
昼食代注文（10/23）の有無 情報交換会参加（10/23）の有無  
申込先：（医）芙蓉会芙蓉会病院 理学療法室  
佐井川 匠秀  
TEL.017-738-2214 FAX.017-738-2249  
E-mail fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp  
（講習会に関するお問い合わせは上記連絡先で受付致します。）  
締切日：平成16年10月1日（金）

尚、この講習会は新人教育プログラム「理学療法の専門領域」、生涯学習プログラムの単位認定対象となります。

# 第30回青森県理学療法士会定例研修会改め 青森県理学療法士会症例検討会のご案内

学術局長 長谷川 至  
研 修 部 佐井川 匠秀

例年開催しておりました「青森県理学療法士会定例研修会」ですが今年度はその名称を「青森県理学療法士会症例検討会」に変更し開催することとなりました。

発表者による話題提供をもとに、ディスカッション形式をとりながらおおいに日頃の悩みや、経験談を語り合える場にしたいと思います。

つきましては、会員の皆様より広く演題の募集を致します。例年新人会員中心としてまいりましたが、先輩会員の皆様にも、日頃の臨床活動の成果や疑問について発表する機会として大いに活用して頂きたいと思致します。

尚、本会の発表者には新人教育プログラム「症例検討」の単位、参加者には「症例検討」の単位がそれぞれ認定されます。

- 記 -

と き：平成16年12月4日（土）・5日（日）（予定）（演題数により期間短縮あり）

と ころ：弘前大学医学部保健学科

参加費：500円

申込先：（医）芙蓉会芙蓉会病院 理学療法室

佐井川 匠秀

TEL.017-738-2214 FAX.017-738-2249

E-mail：fuyo-rigaku236@fuyoukai.or.jp

締 切：平成16年10月8日（金）

発表希望者の方へ

発表内容は症例報告に限らず、日頃の業務に関する悩みなどをまとめて頂いてもかまいません。締切までの抄録の作成は不要ですが、上記期日までに発表の意志、できれば（仮）タイトルをお知らせ下さい

## 平成16年度現職者講習会のお知らせ

- PNF基礎編 -

日 時：平成16年9月24日（金）～26日（土）

講 師：高橋 護（湯河原厚生年金病院）

会 場：青森県立保健大学など

受講費：20,000円（情報交換会費、昼食代を含む）

定 員：20名

申込方法など詳細は「理学療法学」掲載の協会ニュースNo.229を参照下さい。

## 整喜会の開催案内

「整喜会」は西北五地区の整形外科医の先生方による勉強会の名称です。隔月1回（奇数月第3週水曜日）の頻度で開催されており、先生方の発表の他、特別講演なども行われております。一昨年からは、理学療法士、作業療法士にも公開されて、西北五地区の県士会員を中心に参加しております。

整喜会のご厚意により、今年度からは県士会全体への公開と、新人教育・生涯学習プログラムの単位認定についてご了解頂きました。

つきましては、次回の開催予定は以下のとおりになっておりますので、ぜひご参加下さい。なお、今後の予定については、随時、ニュースに案内を掲載致しますのでご確認ください。

日 時：7月21日（水）18:30～  
場 所：ホテルサンルート五所川原  
テーマ：未定  
会 費：1,000円程度

### 事前申込み不要

新人教育プログラムおよび生涯学習基礎プログラムの単位認定が可能です。

読み替えテーマなど詳細については事務局（弘大 長谷川）までお問い合わせ下さい。

テーマについては開催日の2週間前頃に決定する予定です。詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問い合わせ先  
五所川原市立西北中央病院  
リハビリテーション部 舘山 智格 宛  
TEL0173-35-3111（代表）  
E-mail（リ八部）：shp13@r20.7-dj.com

## 県士会ホームページ更新について

県士会のホームページが新しくなりました。一部更新作業中ではありますが、ぜひご覧頂きご活用頂ければ幸いです。

**新ホームページ**：<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

なお、一部会員専用ページを作成し、現在は研究助成の案内と申請用紙を掲載しております。今後はパスワード管理をする予定ですが、まだ作業が完了しておりません。現在のところ、会員専用ページを閲覧するためには専用のアドレスを入力する必要があります。ご覧になりたい方は、弘大 長谷川までお問い合わせ下さい。この会員専用ページのアドレスについては、会員以外には公開できませんので、アドレスの管理には十分ご注意下さい。

## ～ 求人情報 ～

### 身体障害者更正施設 あかまつ園

募集職種：作業療法士 若干名

勤務地：協生会 身体障害者更正施設 あかまつ園  
十和田市大字大沢田字早坂 194

担当者：理学療法士 三浦 時男

T E L : 0176-27-2126

F A X : 0176-27-2127

### じけいかい訪問看護ステーション

種 別 : 理学療法士・作業療法士

募集人員 : 常勤・非常勤

勤務時間 : 8:30 ~ 17:30 土、日、祝休み

その他 : 詳細は面談時

問合せ先 : じけいかい訪問看護ステーション

青森市安田近野 145-13 (青森慈恵会病院裏)

T E L : 017-783-5120

担当 神 (人事係)

## 【財務部通信】

### 会費自動引き落とし者へ

平成 16 年度の自動引き落としが 5月27日(木)に行われました。 引き落とし不能者 と 引き落とし以外者 は下記へ振り込みをお願いします。

会費納入方法は下記の通りです。

士会費 12,000 円の振込先 振込み手数料 210 円

みちのく銀行 黒石支店 店 番 0 2 4 口座番号 0 1 1 7 0 1 3

名 義 名 青森県理学療法士会 代表者 佐藤 洋

協会費 11,000 円の振込先 振込み手数料 120 円

郵便振替で 口座番号 0 0 1 3 0 - 3 - 7 8 6 4 2

加入者名 社団法人 日本理学療法士協会

### 通信欄に

記入例 平成 16 年度会費 1 名分 佐藤洋 8692 協会会員番号

と記入して下さい。払込人住所氏名は、施設名の住所氏名で結構です。

尚、領収証が必要な方は、下記へ御連絡下さい (昨年、連絡を下さった施設には入金を確認できれば送付します)。また、どうしても 6 月 15 日まで納入できない人は、自動引き落としにして下さい (振込手数料無料、公共料金と同じく忘れなくて済む)。どうぞ御協力をお願いします。

不明な点は 黒石病院リハビリテーション科

佐藤 洋

TEL 0172-52-2121(217)

## 【ニュース編集部通信】

今回の原稿締切は、平成16年7月23日(金曜日)です。  
原稿を依頼された方、もしくは掲載記事をお持ちの方は、次頁の各支部担当に  
フロッピーディスク、FAX、E-mailのいずれかにて、送付下さい。

### 青森県士会ホームページアドレス

<http://www.aa.alpha-net.ne.jp/ptaomori/>

### § ニュース編集部支部担当者 §

東青・むつ下北：須藤 宗（あすなる学園）

〒038-0003 青森市石江字江渡101 TEL 017-781-0174 FAX 017-766-4396

E-mail：ptasunaro@hotmail.com

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

三八・上十三：川口 恵理（シルバー病院）

〒039-1161 八戸市河原木字八太郎山10-444 TEL 0178-28-4000 FAX 0178-20-4962

E-mail：ptsilver4000@yahoo.co.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

中弘南黒・西北五：藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

〒038-0194 南津軽郡碓ヶ関村碓ヶ関字湯向川添30 TEL 0172-45-2231 FAX 0172-45-2373

E-mail：reimeipt@h7.dion.ne.jp

（リハ科全体のアドレスのため、本文中に宛名が必要）

事務局ニュース編集部長；梅村 孝博（東北メディカル学院）

〒039-1522 五戸町字苗代沢3-6 TEL 0178-61-0606 FAX 0178-61-0034

E-mail：pt.umemura@rinken.ac.jp

編集委員；伴 久美子（黒石病院）

須藤 宗（あすなる学園）

藤田 俊文（黎明郷リハビリテーション病院）

川口 恵理（シルバー病院）

豊嶋 大輔（八戸城北病院）

佐々木幸重（十和田東病院）

外交局広報部(HP担当)；安田 友久（青森労災病院）

### 編集後記

高校総体、中体連と、子どものスポーツ大会が続いています。右も左も分からずに始めたバレーボールのメディカルサポートも3年目に入り、あの時1年生だった子どもが中学校生活最後の大会を迎えようとしています。沢山の楽しい思い出があり、悲しい出来事があり、様々な表情があり、一つ一つが子どもの成長なのだと感慨も一入です。障害者スポーツに関わっている傍ら、何年か先に、この輪の中に一人でも障害を持っている子どもが加わって、一緒に入場行進をしている姿がみられたらと願ってやみません。（文責：須藤）

## 奥 付

編集；青森県理学療法士会

発行；PT 事務局・ときわ会病院リハビリテーション科内

〒038-1216

南津軽郡常盤村榊字亀田2-1

PHONE・FAX 0172-65-3698

E-mail；ptaomori@m16.alpha-net.ne.jp